

令和2年度 第3回富山市高齢者総合福祉プラン  
(高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画) 策定懇話会 議事録

1 日 時 令和3年1月22日(金) 午前10時～午前11時25分

2 場 所 富山市役所8階 大会議室

3 出席者 出席委員 10名 欠席委員 3名

【委員】野尻委員(座長)、松原委員、野入委員、高原委員、岩井委員、久世委員、高山委員、藤井委員、島田委員、河上委員  
(欠席：相山委員、福田委員、菱田委員)

【事務局】酒井福祉保健部長、岸福祉保健部次長、高畠福祉保健部次長、宮崎福祉保健部参事(保健所保健予防課長)、横山保健所地域健康課長、片山介護保険課長、土地長寿福祉課長

4 次 第

(1) 議 事

富山市高齢者総合福祉プラン(案)について

5 質疑応答

委員

案としてはよくまとまっているが、第8期の目標に向けて、いかに推進していくかが大事になってくると思う。

今般の大雪で富山市も苦勞されたと思うが、市民のみなさまも大変苦勞されたと思う。介護現場においても、まず職員が施設に出勤することに大変苦勞し、特に通所系サービスは送迎ができず、1週間休んだ施設も結構あった。訪問系サービスでは(ご自宅まで)歩いていくこともあった。また、施設でお弁当を作り、ひとり暮らしの方に配ったこともあった。スーパーやコンビニに行っても、食べるものがない状況であった。資料5「基本施策4：総合的な安全対策の強化」において、高齢者が安心して安全に暮らせるまちづくりについて記載してあり、地域ぐるみの除雪活動の推進が取組として記載されているが、高齢者のこのような状況にも対応できるような対策に努めていただき、安心して暮らせるようなまちづくりを要望する。

事務局

今回の大雪は一晩で1m以上の雪が降り、今までにない降り方であった。長寿福祉課では屋根雪下ろしに対して経費の助成を行っているが、地域ぐるみの除雪体制については市民生活部でさまざまな施策を行っている。例えば、事前に除雪してほしい高齢者とボランティアをマッチングさせるという施策を行っている。

事務局

今回の大雪は異常気象のひとつであったかと思う。かつての 38 豪雪や 56 豪雪は降っている期間が長かったが、今回の大雪は一晩で 1m 以上という異常気象であった。経済成長期には建設業が重機を所有して除雪を行っていたが、近年は、行政が保有している重機をレンタルして除雪を行うことが多くなった。また、オペレーターも高齢化し、人数も減少していることから、除雪を行う人員の確保も難しくなっている。このような背景もあり、一部で交通障害を招いてしまった。今回の災害は担当課において検証を行うと思うが、これは雪だけでなく、地震が発生した場合も今回のような交通機関の寸断が考えられる。地震よりも気象は予報が可能であり、今回の経験を踏まえて、市民にどのように発信していくかが大切になると思う。また、高齢者や障害者など災害弱者に対しても、現実的・現実的な対応を早急に検討していく必要があると思う。

事務局

除雪に関する要望が、建設部では電話が繋がらないため、一部介護保険課にも寄せられており、担当課にメール等で情報提供を行っている。

介護保険課では、1/11 に特養や老健等の 3 カ所に大雪に対する影響について電話でヒアリングを実施した。うち 1 カ所が備蓄を消費し、次の配送が来なければ、系列の病院でやりくりしなければならなくなり、苦慮したとのことであった。また、通所サービスでも送迎ができないため、1/11～13 の間サービスを停止したところもあった。どうしても必要な場合は対応したとのことだが、今般の大雪で通所及び訪問サービスの提供について困難なことがあったとこちらも認識している。

複数の事業所からコロナ禍における特例措置みたいなものが今般の大雪にもないのかとの問い合わせが寄せられており、県や国に伝えていきたいと思う。

委員

これまで高齢者は 88 歳、米寿まで頑張ろうという方が多かったが、最近は人生 100 年時代となり、老人クラブでも目標を 100 歳としていきたい。

委員

在宅系サービスについて、今年度 4～6 月は訪問系、通所系ともに、コロナの感染を恐れて利用者の利用控えが顕著にみられた。全国的にみても、今年度の 4～6 月は前年対比 3～4 割減のところが多かった。私どもの施設でも 4～6 月は 3 割減で推移したものの、ここに来て回復傾向にある。さきほど介護保険事業のサービス利用量の見込みについて説明があったが、令和 2 年度の実績見込や第 8 期の利用見込みを作成するにあたり、令和 2 年度の上期の実績をもとに利用見込みを推計するのは少し危険かと思った。

施設系サービスについては利用者から利用したいという声は多いが、実際には職員の確保に四苦八苦している。具体的にいうと、ベッドはあるが、お世話する職員が確保できないため、やむを得ずベッドをあけざる負えない。介護人材の確保は難しい問題だと思うが、施設系サービスにおいても、(このような状況から)利用見込みが減少しているかもしれないということを情報提供しておきたい。

委員	<p>資料1の5ページの地域づくりに関して内容が濃くなったと感じた。ただ、すべてが「推進」となっており、もう少し施策に対応したアウトカムを反映すればよくなると思った。</p> <p>また、資料1の7ページに歩行者の安全について記載されている。例えば、今般の大雪ではひとり暮らし高齢者や障害者などがどうしているか分からない状況であり、非常に危険であった。(このような状況において)地域ぐるみで支援者を活躍させるようなことができないかと思った。さらに、指標にできるものはないかと思ったが、事務局はいかがか。</p>
事務局	<p>委員が言われるような指標を出すことは難しいと思うが、出すことが可能な指標は出していきたい。また、災害に関しては、次期計画から単独の項目とした。支援者に関する指標を設定できないか検討してみる。</p>
委員	<p>自治振興会長という立場から、保健センター中心とした「地区健康づくり推進会議」に参加している。健康でないと地域力が落ちるので非常に大事だと思うが、推進会議のメンバー構成が分からない。地域の意見をすいあげるようなメンバーになっているか不明確だと感じている。また、その場で意見を求められるが、会議資料を事前に送付いただいた方がスムーズに会議が進むと思う。</p> <p>認知症の徘徊を防ぐために、家族が家のあらゆるところに鍵をかけ、ことが起きたときに家から出られなくなり、亡くなられた方がいた。地域でどのように防いでいくべきか悩んでいる。</p>
事務局	<p>「地区健康づくり推進会議」については、基本的には自治振興会や社会福祉協議会、民生委員、老人クラブ等地域の代表の方を集めて実施している。現在のメンバーに地域の情報が集約されていると思い、ご意見を伺っている。取り込めていない意見があるということ踏まえ、地域によって事情は異なると思うが、各保健福祉センターに事情を説明するなど改善に努めていきたい。</p> <p>資料の事前配布については、委員の言われるとおりでと思うので、早期に作成した上で、事前配布するように各保健福祉センターへ依頼したい。</p>
事務局	<p>認知症について、困難事例については各地域包括支援センターで解決策について話し合いをしており、各地域包括支援センターの報告書も長寿福祉課に集約されている。</p>
委員	<p>新型コロナウイルス感染症が終息に向かったとしても、感染拡大前の状態には戻らないと思っている。社会経済情勢や市民の意識、行動様式などが想像以上に大きく変化すると思う。このような状況の中で、高齢者総合福祉プランが策定されているが、プラン策定の前提条件が変わった場合に、計画期間中に見直しすることも想定されているのか。</p>

事務局

第1波のときはどうなるかと思ったが、1年が経過し、施設の方も感染予防を徹底し、大きなクラスターの発生もなくなった。委員の言われるとおりのまま元には戻らないと思う。現在、プランは分かる範囲で計画を立てているが、この先状況がかなり乖離するようであれば、見直しという考えもあると思う。

委員

資料3の115ページの「福祉・介護人材の育成」に、人材の処遇改善に努めると記載されている。現在は介護報酬が始まった時より1割下がっている。加算がつくようになったが、加算がとれないところは下がったままである。資格がある人（看護師や介護福祉士等）を雇えば加算はつくが、資格のある人は給料が高くなる。どこの事業所でも苦勞していることだと思う。具体的にどうすれば人材確保ができるか考えていただきたい。

事務局

新規学卒者が減っている中で、既卒者やカムバックしてもらおう方、元気な高齢者、女性、若者などを福祉人材に呼び込めるよう県を中心に人材対策会議で話し合われている。その中では一つの方策として、外国人材に目を向けることも挙げられている。いろんな層に向けて県と連携して人材確保策を考えている。現在、具体的には示せないが、第8期においても検討していきたい。

委員

高齢者の中には福祉にやりがいがあり、興味を持たれる方もいると思う。元気な高齢者に普及する手立てを講じる方法もある。高齢者同士だと気持ちが相通じたり、自分の先を見据えたりすることもあると思う。離職者にカムバックしてもらおうことも大事だと思うが、給料が安いことが問題だと思う。処遇改善にも努めてほしい。

委員

これだけの福祉をしていただければ地域は元気になると思う。ただ、地域には若い人を含め人材がない。今般の大雪でスコップを持って歩いている人もいたが、地域で見守るには限界だと感じた。家の前に雪が積み上げられ、行政に電話してもつながらないから、民生委員がなんとかしてくれと言われた。また、地域の公民館にブルドーザーがあるにも関わらず、保険に入っていないから使えないとも言われた。電話で困ったことがないかと聞くと、デイサービスに行けないから風呂も入れないという話や雪で道がせまくなり救急車が入ることができないという話もあった。

地域の中に高齢者しかいなくなる現実が差し迫っており、地域の人たちが元気で活動できる場をもっと広げていければいいと思う。

委員

今回はコロナの問題に加えて、突然の寒波による豪雪の問題があった。今回のことは、今後地域を含めて福祉がいい方向に動いていくための反省の機会であったと思う。乗り越えてよりよい福祉になるように力を合わせていきたい。

今回の大雪やコロナは想定していなかったことであった。逆に言えば、それによって見えなかったものが見えるようになったと思う。このことを踏まえて今後どのように対応するかが大切である。

地域ぐるみ関係の指標について、今年度まで地域共生の関係で市内 10 地区をモデルに指定して事業を実施しており、3年間の取組を令和3年度に評価し、令和4年度以降全市的にどのように展開すべきか考えていく予定だ。同じように全市展開していくのではなく、事例を参考にしながら地域の資源や特性にあった取組を進めていきたいと思う。令和3年度以降に評価等を行っていくため、次の計画において具体的な指標を設定することができるようになると思う。

今回の計画はコロナを意識した取組になるよう指示をしているが、高齢者保健福祉計画は方向性を示すものであって、コロナ禍であっても方向性は変わらない。ただ、コロナ禍において事業を取り組んでいくには、手を取り合ったり、寄り添ったりすることは難しくなっている。事業展開にあたっては、コロナを意識した視点に変えていく必要がある。

人材確保は本当に難しい問題であり、県と協力しながら実施していく必要がある。時代の変化に伴い、介護現場の環境は変わってきているにもかかわらず、介護現場に抱くイメージは変わっておらず、一般には伝わっていないと感じている。現在の環境を伝えていくことで、若い世代に目を向けていただき、親の世代も老後をイメージできるようになればいいと思う。加えて、報酬も担保しないといけない。行政として提言すべきところは提言していきたい。

(以 上)